

司式：
奏楽：

「ただ一度」

《神の招き》

前 奏 『主イエス・キリスト、まことの人にして、
まことの神なるお方よ』 J.G. ヴァルター
招 詞 ヨハネによる福音書17章3節
賛 美 歌 205

《神の言葉》

祈 禱 聖霊の照らしを求める祈り
聖 書 出エジプト記12章21～27節 (旧約104頁)
ヘブライ人への手紙9章23～28節 (新約402頁)

子ども説教
交読詩編 96編1～13節 (114頁)
賛 美 歌 513
説 教 「ただ一度」 八木浩史牧師
祈 禱
賛 美 歌 481

《感謝の応答》

信仰告白 使徒信条
奉 献 献金 祈禱:献金当番
主の祈り (週報表紙、ホームページ掲載)

《派 遣》

頌 栄 24
祝 福
報 告
後 奏 『たたえよ、主の民』 (頌栄 24) F.W. ツァハウ

礼拝当番: (役員:) 献金当番:
音響: 映像:

『出エジプト記』12章21～27節では、モーセがイスラエルの長老たちを呼び、過越の準備について具体的に指示します。各家族は小羊を屠り、その血を家の入口の鴨居と二本の柱に塗ります。そして、朝まで誰も家の外に出ずに夜を過ごします。主がエジプト人を打つために通られるとき、入口の血をご覧になり、その家を過ぎ越して災いが及ばないようにされると告げられます。さらに、この出来事を後の世代に伝えるよう命じられます。子どもたちが「この儀式の意味は何ですか」と尋ねたなら、それは主の過越のいけにえであり、主がエジプトの地でエジプト人を打たれたとき、イスラエルの人々の家を過ぎ越され、イスラエルの民を救われたことを記念するものだと言明するよう命じられます。ここでは、過越が単なる一度の出来事ではなく、神の救いを記憶し、次の世代へ伝える礼拝として位置づけられています。

『ヘブライ人への手紙』9章23～28節では、キリストの犠牲は、旧約の祭儀における犠牲とは異なることが示されます。地上の聖所は天にあるものの写しにすぎません。そこでは動物の血によって清められたのに対し、天にあるものには、それ以上に優れた犠牲が必要でした。キリストは、人間の手で造られた聖所ではなく、まことの天そのものに入り、私たちのために現れてくださいました。しかもキリストは大祭司のように繰り返し自分を献げるのではありません。ただ一度、御自身を犠牲として献げ、罪を取り除いてくださいました。そして人間が一度死んで、その後に裁きを受けるように、キリストも多くの人の罪を負うために一度死なれました。さらに、再び現れるキリストは、罪を負うためではなく、キリストを待ち望む人々に救いをもたらすために来られます。ここには一度限りのキリストの犠牲と、再臨への希望が語られています。